

愛知亜鉛鍍金と静清亜鉛

大型めっき槽、相次ぎ更新

中部地区亜鉛めっき加工大手の愛知亜鉛鍍金（本社・愛知県春日井市、社長・近藤満三氏）と、グループ会社の静清亜鉛（本社・静岡県富士市、社長・新貝公啓氏）が、5月に大型のめっき槽を相次いで更新（釜替え）する。愛知亜鉛鍍金は5年半ぶり、静清亜鉛は6年ぶり。2年前から準備を開始。従来の槽は亜鉛を抜いて撤去し、新しい槽を据えて亜鉛を槽内に敷き詰め、約1週間後に稼働を開始する。27日には、愛知亜鉛鍍金で祈願祭を行った。両社ともに大型連休明けから本稼働する。

ともに日本製鉄製の溶融亜鉛めっき釜用鋼板（NAGP）を用いている。愛知亜鉛鍍金の場合、槽の大きさは幅2・7メートル、長さ15メートル、

深さ3・5メートルと巨大。槽本体の重さは83ト、板厚約60ミリの北海道の製作工場に発注し、完成品を船で運び、港からは特殊車両を使って夜間に本社まで陸送した。

愛知亜鉛鍍金は、26日に新たなめっき槽を据え付け。その後、亜鉛約800トを槽内に敷き詰め、約1週間か

けて順次高温で亜鉛を溶かし、5月7日から稼働する。静清亜鉛は、1日までに新たな槽の設置を完了し、5月11日から本稼働する。

27日には、愛知亜鉛鍍金で工事の安全と新たな槽の無事稼働を祈願する神事を開催。近藤社長をはじめ、同社役員、関係者約30人が参加した。

愛知亜鉛鍍金は現建築、道路、鉄道・住宅など幅広い業種向けめっき加工。各種鋼管類、電力通信用金物、土木建築用各種部材、船舶用配管および各種機装金物、冷凍暖房用、農業園芸用などが中心。

めっき槽は、高温条

件などで常時使用するため、定期的に更新して加工品質を保っている。亜鉛めっき加工業

の中核となる

設備のため、

更新は事業の

存続にもかか

わる大事な設

備投資とな

る。投資金額

も1億円規模

に達する。

めっき槽の

使用鋼材は、



新たな槽内に亜鉛を充填したところ。その後、全体に蓋をする

